

刊日

岩手新聞

社団法人岩手新聞社
九五町南町平磯島嶼
次 藤 藤 伊 人行發
一 藤 藤 藤 藤 藤 藤

刊夕日六十月二十

一ヶ月 三十錢
一ヶ月 一十錢
廣告料 一十錢
場所指定 十錢増
日曜祭日翌日休刊

米賣出しに全力を盡して居る商人だから皮肉である。東北の凶作何處風吹くと言はぬばつかに船乗りの子供達が貯蓄通帳片手に五十圓百圓だと預金して行くのを見る時、東北の漁村に於いて幾分あるのかと一驚を感ずる。此の幾分あるのかと一驚を感ずる。此の幾分あるのかと一驚を感ずる。

二百名に募集中であつた寄ことになつた爲め同校の附金がこの程二十四圓集つたので同校に出頭手交した。此は今年春評議會に於て協議の眞心に感激し信望生一同口なして不明につき役場に於て假埋葬に伏した。

平驛ボーナス 四万二千百圓
十六日正午 六百五十名に
歳末の平驛員並に鐵道従業員に對するボーナス本日正午一齊にノシ付給與されて驛員の懐も今夜はホカ／＼

石城郡江名町中之作金田で通行中の同郡磯濱町行驛のみで一萬七千圓機關車弘志は昨十五日午前九時商佐藤龜太郎(五)同町大高保線區其他の他三萬一千四百圓合計四萬二千百圓の多東茨城郡南村地内縣道をシダにて剝飛ばし佐藤は危頓、人員總數六百五十名平均にすれば金六十五圓弱に當る、判任官六十七名は俸給の十四割位雇員及鐵道手三百四十名は十割内外傭人は八割の見當で其れ／＼ボーナス袋の温さで寒氣も忘れる年の瀬が漲ぎつて居る

今夏以來の疑惑が解けた 偽畫家玉齋檢舉さるる 傍若無人の大ホラに 乗つた同好者臍を嘔む

御氣の毒は菊地警部補

今夏來の疑惑の人物畫家の詐欺談を善人と信じ突込
武田玉齋は小名濱町吉田屋んで應接した事は賢明なる
旅館に陣取り獨立畫家の幹菊地氏として干慮の一失で
部と稱し勝手に作製した番あつた。
附を申し口より出任せの大
法螺を吹き畫を描く人にな
く法螺を賣る畫家として當
時心あるものは等しく疑惑
の眼を向けて居つたが果然
平署の活動となり詐欺の確
證を握り平署刑事が目下塔
玉齋桶川町に面會の準備中
たる武田玉齋を檢舉して本
署に引揚げた。
探附するに玉齋は面才が
なく大法螺を吹き同好者を
煙に巻き一幅七八十圓より
三百圓位に賣付けその繪は
名もなき畫家に描かせたも
ので其横着なる行爲には今
更の如く驚へてゐるが小名
濱知名の人人は相當被害者
あり數千圓に及ぶとの事不
ある、御氣の毒な立場に置
かれるのは菊地警部補で

不敵な運轉手 依託金五十圓 拐帶逃走す

石城郡江名町中之作貨物開く片や醬油味噌醸造家
自動車營業白土國治氏方座小名濱支部總會を錦盛館に
運轉手石城郡渡戸村生れ大開催した。
十五日後一時石城酒造組
合小名濱支部總會を新米に
醸造家二ツの總會
五ツトセいつ來て見てもわしら船
漁場の元氣を見てお呉れ
縣二三度めはきり込め
七ツトセ何んと上もさつなく 苦樂を共に鋸あげ
ハツトセ夜分もいと下もさつなく 苦樂を共に鋸あげ
九ツトセ米のめし喰ふ鹽魚 無けりや乾干千粟を喰ふ
十ツトセ遠く他縣へ名も高き 石城七濱一の船
朗らかに歌へ
唄は仕事の妻ぢやもの

紙幣の氾亂! 年の瀬を迎ひ 郵便局大多忙

外は寒風が吹荒てゐる歳末れより醸し出す悲喜劇が其
ある、御氣の毒な立場に置
かれるのは菊地警部補で
見えて逃げ歩く人もあれば其年の瀬なのに……

石城盲啞校へ 兒童の眞心を贈る

石城郡小名濱小學校では過に贈るべく西山校長以下教
師來氣の毒な石城盲啞生職員四十八名全生徒二千

共徳丸大漁唄

一ツトセ人も助かる揚操漁 共徳丸は名をあげた
二ツトセ船の機械はネルトンで
三ツトセ見渡す限り大鱈 取るも採らぬも腕くらべ
四ツトセ夜明け待たずにひと廻り
五ツトセいつ來て見てもわしら船
六ツトセ無理も鰯をとる爲めに
七ツトセ何んと上もさつなく 苦樂を共に鋸あげ
八ツトセ夜分もいと下もさつなく 苦樂を共に鋸あげ
九ツトセ米のめし喰ふ鹽魚 無けりや乾干千粟を喰ふ
十ツトセ遠く他縣へ名も高き 石城七濱一の船
朗らかに歌へ
唄は仕事の妻ぢやもの

鮮魚滿載のトラツク 通行人を剝飛ばす

石城郡江名町中之作金田で通行中の同郡磯濱町行
弘志は昨十五日午前九時商佐藤龜太郎(五)同町大高
保線區其他の他三萬一千四百圓合計四萬二千百圓の多
東茨城郡南村地内縣道をシダにて剝飛ばし佐藤は危頓、
人員總數六百五十名平均にすれば金六十五圓弱に
當る、判任官六十七名は俸給の十四割位雇員及鐵道手
三百四十名は十割内外傭人は八割の見當で其れ／＼ボー
ナス袋の温さで寒氣も忘れる年の瀬が漲ぎつて居る

佐藤代議士 歐米縱橫視察談

萬國議會會議へ出席去る十二圓にて開かれる筈である
一月十四日桑港出帆の龍田
丸にて廿八日横濱着岸歸國
佐藤代議士は小名濱
に於ての歸國第一聲報告談
米縱橫視察談を明十七日午十五時頃平田町
後二時より小學校講堂に於て世界館前のゴミ箱の中へ片
て小名濱役場主催のもとに手を入れ込んだま、年齢推
開催されるが一般町民の應定五十才位の男が死んでゐ
るのを通行人が發見直ちに
講つて午後五時より新米に平署員に通報檢死の結果極
て官民合同歡迎祝宴を會費度の餓につかれ果て凍死せ

行路死亡人 乞食態の五十男

乞食態の五十男
行路死亡人
乞食態の五十男
行路死亡人

瀆だより

小名濱魚市場調査
魚名 魚價 單位
中目 魚價 單位
イシモチ 魚價 單位
マダコ 魚價 單位
赤魚 魚價 單位
イワシ 魚價 單位

天氣豫報

今晚 西風晴れ
明日 南風晴れ
氣壓 七十七・一



連載小説(中篇) 『旅島清水土産』 遊 藤 紳作

これが自分、自分に無性に平五郎は、何か言はうと思腹が立つたし、と言つて匹つたが苦しげに眉に皺を夫の勇を奮い馬鹿も出来な寄せると、そのまゝ、ほんのいし、平五郎は、腰いともりと川霧に煙り初めた高い、腰い切れない憤懣を、なげ月に目をやつた。うつ處のない憤懣を、胸に波打たせてゐた。



紅燈 便

小名濱花街も世の移り變り、で少しは花柳界も變化を來して、料理店に本陣を張つて御變り、と藝妓く、眞暗になつてもまだ燈を呼んで酔がつた常連も、火のはいつてゐない座敷の、大部カフエーに足を運、圓行燈に火を点け、不祥ながら、懐物定をすれば藝者は玉が、て来た、主家の一人娘のお春であつた。

近日開演 磐城座

關東浪曲特選競演大會

Advertisement for a performance featuring artists: 木村重友, 雲井雷太郎, 木村友春, 東家小樂燕, 廣澤虎造. Includes a photo of the artists and text: 一行二十数名

急告

忘年会の宴場にも忘年会より御歸の際も忘年会の御仕出しも松の壽し 驛前の存在 御記憶願ひます 必ず御満足を得られるサービスに自信があります

内科 外科 小兒科 花柳病科 平川醫院 江名町 電話二六番

開院のお知らせ

内科・外科(整形外科) 花柳病科・皮膚科 泌尿器科 小名濱町仲町(舊中村醫院)

石井醫院

日本醫學士 石井正 電話十八番

電氣接合 石油、重油タンク、鍋蓋干釜及 グレン、船舶用各タンク、蒲鉾 酸素接合 用ボイラー一式、出張取付 三好式鍋粕ペキリン(三蒸掛、四蒸掛、五蒸掛各 諸機械) 三好鐵工所植田第一工場 製作

三好鐵工所

主 三好 彌 吉 石城郡植田町驛前八幡下 電話植田一〇八番

高級紳士服 各中等學校制服調製 各種既製洋服

江島屋洋服店

平電話二八九番 町電話二八九番目 (ヤキユウ)

耳鼻咽喉科専門

小名濱分院 大和田耳鼻咽喉科醫院 本院平南町一六(電平一七〇)

カフエー松月 商店向貸家建築に關し御希望の方は至急御來談ありまし

船具商店

淺野セメント 特約販賣店 明治生命保險株式會社 代理店 明治火災保險株式會社

鹽屋商店

鹽屋商店 電話三九番 鹽屋商店出張所 電話一六六番

開業御知

藝妓置屋 福住 江名町南町 電話二二番 江名町南町 電話二二番 福助改メ 久 千代丸